

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000055		
法人名	株式会社ゆかりの里苑		
事業所名	福祉センターすいせんの丘(すみれ)【外部評価結果は2ユニット総合評価結果】		
所在地	奈良県磯城郡田原本町大字平田272番地1		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2992000055-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

～もっと身近、でもっと頼れる～の法人理念の元、グループホーム独自の理念を掲げています。①すてきな笑顔いっぱいすいせんの丘②いつでも来てね！家族も地域の皆様も！③その人らしいせいかつで輝くじんせいを！すいせんの丘が入居者様にとって第二の我が家になれるように、家庭的な雰囲気を大事にしています。又、認知症の進行を防ぐために、行事や、レクリエーションで刺激のある生活を送って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人他施設との連携で利用者の連続性を踏まえた支援の提供ができるよう配慮されています。必ずしも固定するのでは無く、利用者の状況に応じ、利用者の現在にとって、より適切な施設利用を促進し、利用者らしさ、利用者が生活しやすい支援提供となるよう心がけられています。施設周辺を活かした散歩や外出を大切に、落ち着いた雰囲気の中で利用者の運動能力・生活能力の維持に配慮したすごし方ができるよう努められています。利用者の自立を踏まえ、利用者ができることは利用者自身を意識し、生活作業についても利用者主体で利用者と共にできることを寄り添って行えるよう配慮されています。地域のボランティア活用が積極的に行われていたが、コロナ禍の制限下において、従前のような活動が困難な状況もあり、制限緩和に伴いできることから、地域交流を含めた再開が予定されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

【外部評価結果は2ユニット総合評価結果】

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、グループホーム独自の理念を唱和する事で常に意識を付け、共有、実践に努めている。	法人理念に基づいた施設独自の理念が職員の合議で策定されており、地域密着型の特性を意識した、支援の提供ができるよう努められています。法人の行動指針も日々確認されており、適切な支援のかかり方となるよう意識されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前はボランティアの方に来ていただいていたが、コロナ禍になり今は中止している。様子を見て再開したいと思っている。	従前は、地域のボランティアが日常的にかかわられていましたが、コロナ禍の制限下において、従前のような展開が困難な状況でした。制限緩和に伴い、施設行事への地域からの参加を含め、可能な範囲からの再開が予定されています。	コロナ禍で制限されていた地域との交流や地域への外出の再開拡充に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして活動している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長寿介護課、地域包括支援センター、地域の方、家族様にも参加して頂き、取り組みを報告し、意見を伺っている。	コロナ禍の制限下において、対面での開催が困難な状況でしたが、制限緩和に伴い、今年度より対面による開催の再開に至りました。再開に伴い、地域交流に繋がる開催内容の展開が予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	悩み事、困りごとがあれば、相談している。入居者様の紹介を頂いている。	認知症啓発にかかる活動に積極的に取り組まれています。コロナ禍の制限緩和に伴い、小中学校への啓発活動等も再開されています。必要に応じて、利用者の生活面にかかる行政との連携等も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、気が付いた事があれば、職員で話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。3か月ごとに研修を行っている。	自己チェックシートを活用し、年2回職員自身が自らのかかり方が、拘束や虐待に繋がっていないか、繋がりにくいリスクはないかの振り返りが行われています。動画や資料を活用した内部研修が実施されています。口頭による言葉がけが、拘束に繋がる事についての研修にも取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、気が付いた事があれば、職員で話し合い、速やかに上司に報告するようにしている。又研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は受けてもらっている。活用していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用者様や家族様に必ず説明し、不安や疑問にはお答えしている。納得の上契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、普段の会話から要望を聞き取るようにしている。家族様とも連絡を取り、意見、要望をお聞きしている。運営推進会議には家族様にも参加して頂き意見を頂いている。	コロナ禍の制限下において、面会や運営推進会議の開催が制限されていたため、聴取機会の確保が困難な状況でした。制限期間中は、電話時や制限面会時のわずかな時間に、意見等が聴取出来るよう努められていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は真摯に受け止めている。ミーティング等で話し合いをしている。又個々に面談も行っている。	毎月のミーティング時や、年2回の職員面談時に職員からの意見等を把握できるよう努められています。職員からの意見を基に、入浴支援の提供方法変更につげられた事例が確認できました。また、職員の支援方法に関する意見の聴取が行われ、運営の改善へとつげられる検討が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能給で評価している。職場環境・条件の整備には努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画研修を行っている。なるべく全職員が研修を受けれるように、工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の小規模多機能居宅介護、サービス付き高齢者向け住宅とは交流があり、合同の行事等も行っている。以前はGH協会のイベントに参加していた。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人様とお話をさせて頂き、今迄の生活歴やどうい生活望んでおられるか？をお聞きするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階で、家族様の困りごと、不安、要望はしっかりと聞きしている。そのうえで少しでも安心して頂けるように話し合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様の思いを伺った上で「入所なのか？」「在宅でも生活できるか？」を見極め他のサービスも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される方である前に、生活者である事を念頭に置いて、常に本人様目線で考えるように努めている。アットホームな家族のような、関係でありたいと務めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、家族様の思いを伺い、協力して頂ける事はお願いしている。毎月入居者様の様子を各担当者が書いて、写真と共に郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、今迄通っていた、美容室にお連れしている。	コロナ禍の制限下において、従前のような交流が困難な状況でした。可能な範囲での、地域の馴染みの社会資源利用等が行われていました。制限緩和に伴い、イベント等を含めた、交流再開が予定されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様は其々出来る事、出来ない事は違うため、職員が手伝いながら支援することで良い人間関係が作れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や、そのご家族様とは、必要に応じて連絡を取らせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を全て把握するのは大変な事であるが日々の会話や、家族様からの情報を基に思いを汲むように努めている。	利用者の望むこと、思いを大切にした支援の提供に配慮されています。意思表示が困難な利用者には、かかわりの表情や反応から、肯定否定を判断し、利用者の意向に沿ったかかわり方となるよう努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活歴を本人様、家族様からお聞きして職員に伝えている。今迄の生活を尊重し、大事にする事で、その人らしい生活が出来ると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の考えの基で、その方の出来る事を見つけるよう努めている。又、一人では無理でも少し手伝えれば出来る事も大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と意見交換を行い、利用者様の状態にあった介護計画の作成に取り組んでいる。	利用者にかかわる複数職員や専門職等の話を踏まえ、計画の改定に繋がられています。計画には、利用者の意向や意見が反映されるよう留意されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録は、具体的に、その方の発言等も書き込み、後で誰が読んでもわかるようにしている。情報を共有し、実践や介護計画の見直しに結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから、小規模多機能居宅介護や、サービス付き高齢者向け住宅へ移る。又その逆も出来るという意識を常に持ち、柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、色々なボランティアの方が訪問してくださっていたが、コロナ禍になり中止している。又再開できたらと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、提携医が月に2回の往診。何かあればすぐに連絡している。他の病院を希望される方は家族様に対応して頂いている。緊急時は職員が、同行して受診することもある。	かかりつけ医は、利用者の選択で決定されています。提携医療機関利用の場合には、月2回の往診があり、異変時等には24時間対応可能な体制があります。非常勤の看護師が週3日勤務されており、主治医からの留意事項等を踏まえた健康観察が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、小さな気づきも報告し、受診や往診の際医師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、すぐさまサマリーを病院に提出している。又退院前は、状態を伝えて頂き、必ず本人様の様子を見に行かせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するアンケートを取り、本人様、家族様の意向をくみ取った上でターミナルケアを行っている。主治医、訪問看護とも連携をとり支援している。	終末期に関する指針が策定されており、説明・同意が得られています。看取り希望の場合は、医師・家族を踏まえ、利用者の意向に沿った看取り支援計画の策定となるよう努められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に二回行っている。地域との協力は、運営推進会議の時にお願いしている。緊急時の食料や水の備蓄もある。	飲料水・食料・消耗品の備蓄が用意されています。コロナ禍の制限緩和に伴い、地域との協力体制再構築が予定されています。事業継続計画の整備が進行中です。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に尊厳の気持ちを持って声掛けするように努めている。言葉遣いは、親しみを込めて。幼児語や馴れ馴れしい言葉はしないように気を付けている。又、入居者様との距離感も大事にしている。スピーチロックについても研修している。	利用者と個別の会話については、利用者の意向も踏まえ、他の利用者がいない、聞こえないところで、拝聴したり、対話できるよう努められています。共有空間では、会話の内容や声かけの内容が、利用者に対して羞恥心を抱かせたり、尊厳を傷つけることがないように、意識した支援の提供に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の決めつけではなく、本人様が自分の思いを伝えやすいような信頼関係の構築に努めている。又、自分の思いをうまく伝える事が出来ない方もいらっしゃるなので、表情や、何気ない言葉から思いを汲むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者のし易い介護ではなく、利用者目線での介護をするように職員には伝えている。強制ではなく、自由に過ごしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師さんに2か月に一度来ていただいている。又希望される方には、行きつけの美容室にお連れしている。訪問販売に来ていただき、洋服等、自分で選んで買って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、職員と入居者様が一緒に料理をつくっている。又普段は、盛り付け等出来る事はして頂いている。職員は入居者様と一緒に食事を摂っている。	食事を下ごしらえから利用者主体で行う日が設定されており、利用者の生きがいと楽しみにも繋がられています。屋外カフェ等も実施し、利用者が自分で選んで楽しめる機会も確保されています。利用者参加で、手作りおやつを楽しむ機会も設けられています。利用者の自立を意識し、残存能力を活かし、維持できるよう配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをして把握している。一人一人の持病等に応じて、御飯の量や、水分量、食事形態を考えている。又、なるべく自分で食べられる様に食器や配置の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、準備、介助等は個々に合わせた方法でケアを行っている。義歯の不具合等があれば、歯科往診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握して、適宜良いタイミングで声掛けするように努めている。又、日中はリハビリパンツでトイレで排泄して頂いている。トイレ介助も出来る事を見極めながら行っている。夜間の不必要なおムツ対応は減らしている。	利用者の排泄自立維持を大切にされています。職員の介入は、誘導や必要最低限の介助に留められ、利用者自身ができることを大切にすることで、利用者が能動的に排泄自立を継続できるよう配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分補給、適度な運動で便秘の予防に努めている。センナ茶も使用してなるべく薬に頼らない工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての方の希望やタイミングに合わせる事は難しいが、無理のない声掛けで一人一人ゆっくりと入浴して頂いている。	予定浴が基本ですが、利用者の意向や様子を踏まえた柔軟な対応に留意されています。利用者の嗜好に合わせた入浴支援となるよう浴室の環境整備に配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを作り、その方に合わせた時間に就寝して頂いている。日中は居室や、フロアのソファで休んで頂いている。夜間良く休めるように日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はお預かりしている。看護師が服薬管理している。配薬時は、誤薬の無いように必ず確認している。薬の変更があった時は必ず様子を記録して看護師、医師と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、食器洗い、食事の盛り付け、手すりの消毒、シーツ交換の手伝い等できる事はして頂いている。又毎月のカレンダー作りや、塗り絵、工作等も楽しみの一つとしてして頂いている。季節の行事、毎月のお誕生日会等で気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出できてなかったが、同じ法人内の施設に遊びに行ったりしている。気候の良い時期は散歩にいたり、又桜の時期や紅葉の時期には、ドライブを楽しんで頂いている。	コロナ禍の制限下において、積極的な外出は困難でしたが、施設環境を活用した、屋外での活動を増やすことによって、代替手段の一つとされていました。気分転換に車移動により、外の雰囲気や季節感を感じられる場へドライブする等の対応が行われていました。	コロナ禍で制限されていた外出の再開拡充に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいらっしゃるが、今は買い物には行けていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週決まった時間に家族から電話がある方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日数回の換気、消毒に努めている。整理整頓に努めている。フロアの壁面には、季節感のある物を入居者様と一緒に製作して飾っている。職員は身だしなみ、足音、姿勢等に気を付けている。	温度・湿度・換気・清潔保持に留意し、利用者が過ごしやすい空間となるよう環境整備に留意されています。季節感の出る制作物や掲示物等を配置することによって、空間を和ませ、季節を感じて頂ける場となるよう努められています。利用者個々の意向や状態を踏まえた、個々の居場所確保ができるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやカウンターを使用して頂き、個々に居場所を作って頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が心地よく過ごせるように、自宅で使っていた家具、衣装ケース等家族様が考えて持ってきておられる。	居室は、利用者個々が思い思いに過ごせる場として、利用者意向による備品・家具・装飾品等が持ち込まれており、それぞれの利用者自身が過ごしやすい環境が作られています。居室内の環境整備も、可能な範囲で利用者と一緒に整備されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるような、表札をつくっている。又トイレの表示もしている。その方に合ったテーブルや椅子の高さを考える事で、自分で出来る事を増やす工夫をしている。		